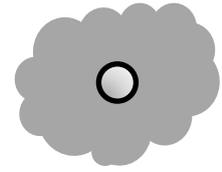


《Lesson 2》 前置詞②

1. **about** = ~について / だいたい <周りにモヤモヤあるイメージ>

<例> I want to talk **about** this movie. (私はこの映画に**ついて**話したいです)

He has **about** 5,000 *yen (彼は**だいたい** 5,000 円持っています)



*yen = 円

2. **at** = (~時) に / (~時~分) に / ~に (場所) / ~で (場所)

<ピンポイントで「ここ!」という地点を指すイメージ>

<例> I am **at** my house. (私は私の家**に**います)

They want to start this **at** 2:30. (彼らはこれを 2 時 30 分**に**始めたいと思っています)

We are **at** Yotsuya Station. (私たちは四谷駅**に**います)



信濃町駅 四谷駅 市ヶ谷駅



*時間自体を言いたい場合は「*It + be 動詞 + 時間」の形になるので注意。

<例> It is 2:30. (今、2 時 30 分です)

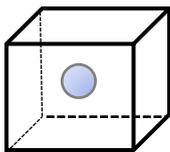
*it は「天候」「寒暖」「時間」「距離」などを表す主語に使われる。

【in と at の違い】

in = その場所の「中」にいる (ある) 時

at = その場所の「一点 (中とは限らない)」にいる (ある) 時

<例> どこにいるの?



I am in my house.

<私は家の中にいます>



I am at my house.

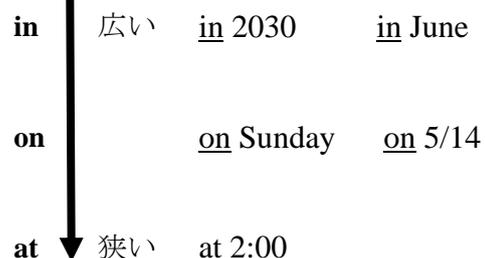
<私は家にいます>

(庭かもしれないし、家の中かもしれない)

【in/on/at と時間の関係】



【範囲の広さ】



ポイント！ 時間を表す副詞やフレーズは単位の小さいものから

時間を表す副詞や前置詞の含まれたフレーズなどが続けて使われる場合は、基本的に単位の小さいものが前にくる。

<例> I leave here **at 7 o'clock every day**.

<私は毎日ここを7時に出発しています>

He wants to come here **at 3 o'clock on Jun 4th**.

<彼は6月4日の3時にここに来たいと思っています>

3. **for** = ～へ (宛て) / ～のため / ～に (朝食など) / (時間・距離) ～の間 (ずっと)
<何かに向かっているイメージ>

<例>

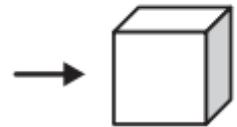
This letter is **for** your brother. (この手紙はあなたのお兄さん**宛**です)

I want to buy this **for** my family. (私は家族の**ために**これを買いたいです)

She practices the piano **for** 30 minutes. (彼女は、30分**間**ピアノを練習します)

Do you want to eat this **for** breakfast? (あなたは、これを朝食**に**食べたいですか)

I study **for** about two hours every day. (私は、毎日だいたい2時間**間**勉強します)



1 時間・距離の長さを表す for は、省略されることもある。

2 「約+期間の長さ (約2時間など)」と言う時、**for about ~** と for と about をつなげることも可能。

4. **with** = ～と (一緒に) / ～で (道具を用いて) <つながっているイメージ>

<例>

I study **with** Naomi every day. (私はナオミ**と一緒に**毎日勉強します)

You need to write your name **with** a pen. (あなたは、名前をペン**で**書く必要があります)



【前置詞を使って名詞を説明する時は名詞の後に置く】

英語では、「日本についての本」「東京にあるレストラン」のような文章は「本+日本についての」「レストラン+東京にある」という形で表現されます。そのため、

1. 日本についての本 = **a book about Japan**
2. 東京にあるレストラン = **a restaurant in Tokyo**

のように「**名詞+前置詞のフレーズ**」となるので注意していきましょう！

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。